



2018年3月5日

早稲田大学

国内初の研究支援・財務システムを稼働し、研究力強化と財務体質強化を加速 RPAによる作業自動化で約30%の大幅な生産性向上も実現

早稲田大学（東京都新宿区戸塚町 総長：鎌田薫）は、2016年1月よりSAP ジャパン株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 福田 譲）の最新の会計システム「SAP S/4HANA」を基盤とする研究支援・財務システムを、アビームコンサルティング株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 岩澤 俊典）の支援により導入しておりました。このたびシステムが完成し、2018年4月より本稼働いたします。国内の私立大学としてはSAP S/4HANAの導入は唯一の事例となりますが、日本の学校法人会計の将来を見据え、グローバルスタンダードとして欧米の大学で多くの導入実績のあるSAPの有用性を強く認識して選定いたしました。

【研究支援・財務システム】

研究支援システムでは、SAP S/4HANAと個別開発を組み合わせることで、現段階では国内では事例のない、公的・民間研究資金の契約管理や、会計システムと連携した入金管理および研究費の適正執行を一元的に支援するシステムを構築しました。

また、財務システムでは、SAP S/4HANAの機能を活用し、学校法人会計基準における制度会計目的での管理と並行して事業活動別の予算実績管理を可能とするシステムを構築しました。

システムの稼働により、中長期計画「Waseda Vision 150」の実現に向け、研究力・財務体質の強化と戦略的大学の経営の実現に向けた改革を推進していきます。

【RPAによる作業自動化】

研究支援・財務システムの稼働と同時に、KPMG コンサルティング株式会社（東京都千代田区 代表取締役社長 宮原 正弘）の支援を受けて、日本の大学としてはじめてUiPath社（東京都千代田区 代表取締役 CEO 長谷川康一）のRPAツール「UiPath」を導入し、支払業務の一部を自動化することで、現状の約30%の業務削減（年間数千万円相当の生産性向上）を実現する見込みです。また、UiPathにより自動的な形式チェックを実装することでヒューマンエラーを排除することができ、作業品質の向上が期待されます。

また、新たに全学的なRPA導入推進体制を整備するとともに、今後は本学の関連会社である株式会社早稲田大学アカデミックソリューション（東京都新宿区 代表取締役社長 高木 範夫）が開発および運用保守を担い、AIを活用したRPAの検討など更なる業務改革を推進していきます。

【内容に関するお問い合わせ先】

早稲田大学情報企画部 担当：神馬、竹迫 Tel: 03-3204-8980 Mail:wits-info@list.waseda.jp

【プレスリリースに関するお問い合わせ】

早稲田大学広報室広報課 Tel: 03-3202-5454 Mail: koho@list.waseda.jp

発信元 早稲田大学広報室広報課 担当：笹川

電話：03-3202-5454 メール：koho@list.waseda.jp FAX：03-3202-9435